

研究課題名	微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)における完全寛解に要する日数に対する臨床的・腎組織学的因子の検討 -既存試料を用いた観察研究-
研究の意義・目的	微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)では、免疫抑制療法によって90%以上が寛解されていますが、完全寛解まで期間を要し治療に難渋することが散見されます。私たちはこれまでの臨床経験から、「健常時からMCNS発症時までの体重増加が多いこと」・「腎組織の障害が重度であること」が完全寛解にかかる日数を延長させるのではないかと感じております。MCNSの方で完全寛解までにかかる日数が延長する因子を検討することは、将来のMCNSの方の治療の一助となる可能性が高く、今回は、大阪市立大学医学部附属病院で腎生検を受けられ、MCNSと診断された方にご協力を頂きたいと考えました。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～ 2023年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2007年5月1日～2020年12月31日に大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科にてネフローゼ症候群の精査・加療目的で入院され、腎生検にてMCNSと診断された方が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>①患者基本情報：年齢，性別，身長，体重，血圧，既往歴，内服薬，注射薬，喫煙歴，飲酒状況 健常時の体重は不明であったり、記録が残っていないことが予想されます。そこで、退院時の体重が本来の健常時の体重であるとみなし、今回は体重増加率を{(入院時体重-退院時体重)/退院時体重}×100(%)として算出いたします。</p> <p>②腎生検時の血液検査：血算，eGFR，Cr，BUN，TP，Alb，UA，TG，TC，LDL-C</p> <p>③腎生検時の尿検査(随時尿)：蛋白，Cr，Na，K，Cl，Ca，P，NAG，β2-MG</p> <p>④治療内容(免疫抑制薬使用の有無とその種類・血液透析の有無)</p> <p>⑤合併症：急性腎障害の合併の有無 以上を診療録より調べます。</p> <p>⑥腎生検組織：保存している病理組織を再検討いたします。</p>
試料・情報の他機関への提供	本研究は大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科のみで研究いたします。他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	ありません。大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	所属：大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 職名：講師 氏名：仲谷慎也
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	お問合せ先：大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科 担当者氏名：仲谷 慎也 電話番号：06-6645-2312